

# 1. これからのアウトリーチを、 4つのアプローチから考えてみました。

(財) 地域創造の「アウトリーチ活動のすすめー地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究(2001年3月)」では、①地域派遣型事業、②体験・創作型ワークショップ事業、③子ども、青少年、親子向け普及事業、④解説付き芸術鑑賞事業、⑤教育普及を主目的とした展覧会事業、⑥実技指導、専門人材育成事業、⑦教養型セミナー・講座事業、⑧施設体験型事業などが「アウトリーチ活動」と捉えられていた<sup>3</sup>。

ここでは、今回の調査結果を踏まえ、概念を整理するため便宜的にアウトリーチの位置づけや内容を4つのアプローチとして類型化し、これからのアウトリーチの考え方を整理することとした。

**劇場・ホール内での  
鑑賞・体験サポート  
(高齢者、障害者、子どもなど)**

**派遣型アウトリーチ①  
(単発・集中型)**

**派遣型アウトリーチ②  
(継続・長期型)**

**連携・協働型アウトリーチ  
(文化以外の政策分野と  
連携して企画・実施)**

<sup>3</sup> 「吉本光宏、市民と地域との新たな回路づくりから芸術を中核とした社会サービスへ、雑誌地域創造(2003 Spring vol.14)」では、アウトリーチの機能に着目して、「呼び込み型アウトリーチ」「お出かけ型アウトリーチ」「バリアフリー型アウトリーチ」という類型化が行われている。

- これら A～D のアプローチは、アウトリーチにおける重要性の優先順位や企画のステップアップを示すものではない。アウトリーチに取り組む際に、それぞれの目的や狙いに応じて、主体的にアプローチを考えるための参考として整理、分類したものである。
- また、「企画・実施主体」の項目では、文化施設を中心に上げているが、地域で活動する文化団体や NPO など、民間が行うアウトリーチも数多くあり、文化施設の協働のパートナーとなる可能性も考えられる。

図表5 アウトリーチにおける4つのアプローチ

	<b>A.劇場・ホール内での鑑賞・体験サポート</b>	<b>B.派遣型アウトリーチ①(単発・集中型)</b>	<b>C.派遣型アウトリーチ②(継続・長期型)</b>	<b>D.連携・協働型アウトリーチ(文化以外の政策分野と連携して企画・実施)</b>
<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちや高齢者、障害者、社会的弱者等の劇場やホールにおける鑑賞活動の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化・芸術に触れる機会の少ない、あるいは困難な住民や地域に対して、文化・芸術を体験する機会を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化・芸術を教育や福祉現場の日常的な活動として位置づけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化・芸術をとおした地域の課題(教育、福祉等)への取り組み</li> </ul>
<b>戦略</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校におけるアウトリーチと劇場・ホールでの鑑賞事業を連携したプログラムの開発</li> <li>● ハード、ソフト両面からのバリアフリー化、スタッフの「心のバリアフリー」の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アーティストを学校や福祉施設などに派遣し、ワークショップやミニコンサートなどを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アウトリーチを長期的、継続的なプログラムとして展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育や福祉など、文化以外の政策領域、施設や団体との協働プログラムの展開</li> </ul>
<b>企画・実施主体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化施設および派遣先の学校、福祉施設等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化施設および派遣先の学校、福祉施設等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化施設、地方公共団体の関係部局、および派遣先の学校、福祉施設等</li> </ul>
<b>効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● すべての人に開かれた公立文化施設の実現</li> <li>● 文化施設の利用者の拡大、サービスの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 非日常的な体験による自己や他者の再発見、日常生活の変化</li> <li>● 文化施設の受益者の拡大、支持者(サイレントパトロン)の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育や福祉における固定概念や既存施策の枠組みの変化</li> <li>● 教育や福祉における人々の見方や価値観の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感動を他者と分かち合える学習機会の提供</li> <li>● 子どもたちのコミュニケーション能力等の育成</li> <li>● 非日常性や違いを個性や豊かさとして認め合う社会の実現</li> </ul>